

## こどもの病気 「アトピー性皮膚炎」

乳幼児に湿疹がみられると、なんでもかんでも「アトピー？」と反応していませんか？見えるものなので気になるでしょうし、周りがいろいろいうかもしれません。民間療法などで、効果がみられた経験を、教えてくれるひとがいるかもしれませんが、すべての人に有効というわけではありません。まずは、お医者さんに相談しましょう。

- 原因：アレルギー体質の子がアレルゲン（アレルギー反応の原因物質）に反応し、皮膚のバリア機能が低下して、かゆみなどの症状がでます。
- 症状：かゆみのある湿疹が、繰り返します。顔から胸の辺りに広がり、全身が乾燥してかさかさしてきます。正しい治療をうけず、重症化した場合や、長引いた場合は、ひじの内側や膝の後ろ側がひどくなり、皮が厚くなり褐色になってきます。かきむしったところが細菌感染をすることもあります。
- 治療：状態や場所により、保湿剤、非ステロイド剤、ステロイド剤の塗りくすりを使います。のみぐすりでも、アレルギー症状、かゆみをおさえることもあります。治療は長期になりますが、ステロイド剤の副作用を心配してお母さんの判断でやめたりしたら、かえってひどくなることもあります。根気よく治療しましょう。

（治療については、お医者さんの判断によりちがいます。ここには一般的なものに記載しています。）

- 病院に行くタイミング：指示があれば、定期的に通院しましょう。かゆみのひどい湿疹がでてきたら受診しましょう。
- おうちでできること：
  - スキンケア・一番大切なことです。日頃から皮膚を清潔に保ちます。お風呂から上がった後、しっかりとしているうちに、指示された軟膏をぬりましょう。
  - お風呂・・・あついお風呂に入ると、かゆみがひどくなります。すこしぬるめのお湯にしたほうがよいでしょう。石鹸でゴシゴシこするのはやめましょう。よく泡立てて、泡だけでなでるように洗ってあげましょう。保湿効果のある入浴剤を使うのもお勧めです。
  - 掃除・・・普段から、掃除をしっかりと、ダニなどのアレルゲンない環境をできるだけつくりましょう。
  - 清潔・・・つめは短く切りましょう。
  - 温度・・・部屋を暖めすぎないようにしましょう。
  - 衣類・・・厚着はやめましょう。ちくちくする服はやめましょう

アトピー性皮膚炎は、遺伝的な要素も含んだ多くの原因のある疾患なので、その原因を元からなくす薬物療法（原因療法）はなく、対症療法となります。アトピー性皮膚炎では「症状がない。症状があっても、日常生活に支障がない程度の軽い状態である。もし、症状がでて、適切な対応ができ、しばらくすれば落ち着く。」ということが、治療の目標になります。正しい知識と、持久力で治療していきましょう。